

平成 27 年度第 2 回岐阜県地方独立行政法人評価委員会(県立病院関係)

－ 議 事 要 旨 －

1 日 時 平成 27 年 7 月 23 日(木) 14:30～17:00

2 場 所 岐阜県図書館 特別会議室

3 出席者

[委 員] 清島委員長、石原委員、芝田委員、富田委員

[専門委員] 金山専門委員

[法 人] (地方独立行政法人岐阜県総合医療センター) 滝谷理事長、富田副理事長兼事務局長
(地方独立行政法人岐阜県立多治見病院) 原田理事長、松葉副理事長兼事務局長
(地方独立行政法人岐阜県立下呂温泉病院) 山森理事長、藤枝理事兼事務局長

[設立団体] (岐阜県) 久保田健康福祉部次長、副島地域医療推進課長、安田管理調整監、
鈴木課長補佐兼県立病院・看護大学法人係長 ほか

議事概要 県立病院関係

[審議事項：議題4]

地方独立行政法人岐阜県総合医療センター・岐阜県立多治見病院・岐阜県立下呂温泉病院の平成26年度業務実績に関する評価について

1ブロック 各法人から実績を説明

1ブロック 質疑応答

【富田委員】

岐阜県総合医療センターの感染制御支援システムは重要である。

【清島委員長】

これは、医療情報のシステムだけか。それ以外も含んだものか。

【総セ 滝谷理事長】

全て含んだもの。

【富田委員】

ICUだけでなく、全病棟を対象にしたものか。

【総セ 滝谷理事長】

全病棟である。

【石原委員】

多治見病院について、前年よりも自己評価を下げている項目が多いが、理由はどのようなものか。

【多治見 原田理事長】

評価の仕方の問題で、昨年よりも実績が下がったとは思っていないが、ほぼ年度計画どおりならばⅢ、年度計画を上回ったと判断したらⅣという評価にしている。

【富田委員】

多治見病院の医学生の受入数が増加しているが、学生の受験に反映されたか。

【多治見 原田理事長】

見学に来てくれる学生は大幅に増えたが、期待したほどの受験数には結びついていない。

【富田委員】

下呂温泉病院は、個室化すると感染症対策がやりやすく、アウトブレイクで止まると思われる。

【下呂 山森理事長】

総合医療センターが導入した感染制御支援システムのようなものはいらないと考えている。

2ブロック 各法人から実績を説明

2ブロック 質疑応答

【富田委員】

総合医療センターにおいて、小児救急が減っている傾向にあるのは、小児の人口が減っているということが原因か。

【総セ 滝谷理事長】

近隣の小児救急体制が充実してきたことが影響していると思う。

【富田委員】

多治見病院の紹介率が上がってきたのは、連携パスや連携会議などにより機能分化がうまくいっているためか。

【多治見 原田理事長】

紹介率は開業医との関係が大きいため、職員は非常にこまめに定期的に関係者を回っており、そういうことを何年も続けてきた結果により効果が出たと感じている。

【清島委員長】

下呂温泉病院の項目番号 20 について、下呂市がん検診とか下呂市特定すこやか健診とかの数字が伸びており非常に評価できると思うが、具体的にどういう種類を行っているか。

【下呂 山森理事長】

下呂市から補助がある検査はすべて実施している。

【清島委員長】

受診率はどうか。

【下呂 山森理事長】

独法化後はほとんどが受診している。

3 ブロック 各法人から実績を説明

3 ブロック 質疑応答

【富田委員】

開放型病床は、開業医が来てくれても点数を取ることに躊躇されることがあって、共同指導の回数に上がってこないことがある。県総合医療センターの共同指導回数の 10.7 回という数字は、診療報酬上で算定をしている回数か。

【総セ 滝谷理事長】

10.7 回という数字は、当院に来ていただいた回数。

4 ブロック 各法人から実績を説明

4 ブロック 質疑応答

【石原委員】

下呂温泉病院の項目番号 41 の評価がⅢの理由は何か。

【下呂 山森理事長】

年度計画には、“医師の負担を軽減するため”と記載はあるが、まだ医療クランクが足りないという気持ちもあってⅢにした。

【清島委員長】

ジェネリックの導入について各病院は努力をされているが、現時点でもう限界に近いのか、まだ導入していく余地はあるのか、そのあたりはどうか。

【総セ 滝谷理事長】

当院は、まだ導入の余地はあると考えている。

【多治見 原田理事長】

当院は、限界に近いところまでいっていると感じている。

【下呂 山森理事長】

回復期とか透析とかいろいろなところが包括でやっており、その包括分を入れれば、ジェネリックを使っている割合は高い。

5ブロック 各法人から実績を説明

5ブロック 質疑応答

【芝田委員】

下呂温泉病院について、職員給与費対医業収益比率を改善するために医師確保が必要という話があった。ただ、医業収益を増加するために医師を増やすとまた人件費が増えることにつながると思うが、そのあたりはどのように考えたらよいのか。

【下呂 山森理事長】

医療に関する全ての指示は医師しか出すことができず、医師は年間で1億～1億5千万円分の指示を出すと言われている。そのため、医師がいないと指示が全く無いことになり、それに伴い他の職員は仕事が出来なくなる。そのため医師が増えなければ、医業収益は増えない。

【藤枝理事兼事務局長】

当院の医師1人あたりの人件費の平均は1,500万円程度なので、医師が増えていかないと厳しい状況である。

【審議事項：議題5】

地方独立行政法人岐阜県総合医療センター、地方独立行政法人岐阜県立多治見病院及び地方独立行政法人岐阜県立下呂温泉病院の第2期中期目標(案)について

1ブロック 各法人から実績を説明

1ブロック 質疑応答

【清島委員長】

平成24年度で多治見病院のドクターカーの運行業務が停止になったのは、どういう経緯か。

【多治見 原田理事長】

麻酔科の中で担当していたドクターが個人的な理由で退職され、人員が不足したため停止した。

【清島委員長】

停止による大きな影響はあるか。

【多治見 原田理事長】

数は少ないかもしれないが、自宅で救急処置をして後遺症が無く元気になられた患者がいるので、全く影響がないとはいえない。

2 ブロック 各法人から実績を説明

2 ブロック 質疑応答

【石原委員】

3-3-2 の多治見病院について、医学生等の受入が大幅に増加していると思うが、それでも自己評価がⅢであるのはもう少し受入数を増加させることは可能ということか。

【多治見 原田理事長】

受入はまだ可能だと思われる。

3 ブロック 各法人から実績を説明

3 ブロック 質疑応答

【金山専門委員】

下呂温泉病院で徘徊される患者が減少した理由は。

【下呂 山森理事長】

当院は患者最優先という考え方で、5つの個室を1つのブロックにして全ての生活の機能が済むようにしている。例えば、通常だと患者がトイレに行って帰り道が分からなくなることがあるが、当院は1ブロックの中にトイレがあるのでそのような心配がない。

また、個室なので他の患者に気を遣う必要が無い。大部屋だと患者が新しい環境で戸惑うことがあるが、個室なので比較的安心していただける。基本的に部屋から出る必要がないし、出てもすぐ近くで済むため徘徊が少なくなっている。

[報告事項]

地方独立行政法人岐阜県総合医療センター・岐阜県立多治見病院・岐阜県立下呂温泉病院の平成27年度年度計画について